

平成 22 年度 毛長川流域連絡会（第四期・後期） 活動報告書

毛長川流域連絡会の概要

- 第六建設事務所では、毛長川を地域に活かした親しめる川とするため、流域の皆様や足立区、東京都が情報や意見の交換を行うことを目的として、平成 15 年に毛長川流域連絡会（以下「連絡会」という。）を設置いたしました。
- 連絡会は 2 年を 1 期とし原則として年に 2 回開催しており、平成 22 年度は第四期の後期として委員 21 名[都民委員 13 名（団体委員 11 名、公募委員 2 名）、行政委員 8 名]により運営されました。今年度は第 14 回として第四期 3 回目の連絡会を開催し、第 15 回は現地視察を実施しました。

平成 22 年度の活動内容

第 14 回流域連絡会

- 日時：平成 22 年 12 月 1 日（水）14 時 00 分から 15 時 40 分
- 会場：竹の塚地域会議室 二階大会議室
- 参加人数：都民委員 13 名、行政委員 7 名
- 議題・議事概要

第四期の 3 回目として東京都からの報告事項をもとに、毛長川について意見交換が行われました。



1. 開 会

2. 事務局挨拶

- ・資料の確認
- ・イベントの案内
- ・進行の説明
- ・都民委員、行政委員の紹介
- ・「毛長川流域連絡会設置要綱」の説明と経過の説明

- ・人事異動による座長の交代の報告

3. 議 事

(1) 毛長川の整備計画について (事務局)

〈概要〉

- ・毛長川は、埼玉県と東京都の境界が輻輳していることから、平成6年に整備のために埼玉県と協定を締結した。その延長が約6.9kmで、東京都が施工する延長は4.3kmとなっている。平成2年度に下流部から工事に着手し、現在に至っている。
- ・毛長川の整備は、計画流量を流すために河床掘削を行っていく。そのために既設の護岸の内側に鋼管矢板護岸を整備し、ある程度延長を伸ばした段階で下流側から河床の掘削を行っていく。鋼管は、東京都施工区間の残り120mまで到達している。
- ・鋼管矢板の進捗状況は、協定部分に対して77%となっている。
- ・整備の効果を説明すると、以前の毛長橋は、桁下が低い状態で、川の真ん中に橋脚が建っているなど川の流れを阻害する要素があったが、整備後は、真ん中の橋脚がなくなり、桁の高さも1メートル以上、高くなった。その結果、平成21年8月の増水時も流下能力は確保された。
- ・毛長川は、もともと緑が多いところなので、できる限り緑化を考えていきたい。さらに親水面でも、川に近いところを歩行できるように検討を進めている。

(2) 毛長川の整備工事 (見沼代用水合流部) について (事務局)

〈概要〉

- ・見沼代用水合流部付近の護岸整備工事は完了し、既に砂小橋を架設して途中であるが通行できるようにしている状況である。引き続き、平成22年度は、舎人橋の架設、通路部分の仕上げ工事、既に架設してある砂小橋の通路部分の仕上げ工事を進めていく。
- ・今年、多発した集中豪雨で六建管内の河川で水害事故が発生し、その緊急対応等で毛長川の橋の工事が予定より遅れてしまったが、舎人橋、砂小橋の年度内完成を目指していく。

(3) 維持管理の現状と課題について (事務局)

〈概要〉

- ・油の流出で一番通報が多いところは、鷺宮橋から綾瀬川の内匠橋の間で、通報があればすぐ現場に行き、油を除去することの指導を行っている。
- ・ごみの不法投棄については、鷺宮橋の上流に六建と竹の塚警察、地元の町会連名で警告板を立て、ごみの不法投棄を無くす努力をしている。警告があるからごみの不法投棄がなくなるというわけでもないが、今後は、地元の自治体や地域の皆様の協力を得ながら、一緒にこのような問題を解決していきたいと思っている。
- ・皆さんからご要望がある草刈りについて、出来る限り対処しているところであるが、川を自然のままに残しておきたいという思いもある。

(4) 毛長川魚類調査結果について (情報提供) (足立区)

〈概要〉

- ・例年行われている「毛長川魚類調査」の結果について、今年度は16種の魚類が確認され、大きな変動はないが昨年の調査より若干減っている。
- ・アユなど4種類がみられなくなっていること、今年の調査で初めてスズキが確認された。
- ・今回、東京都指定の絶滅危惧種であるマルタ、カマツカ、ニゴイ、ヌマチチブが確認された。
- ・綾瀬川で問題となる外来種の肉食魚が確認されたため、今後、毛長川広がっていきってしまう可能性

がある。

(5) その他 「第15回毛長川流域連絡会」の開催について (事務局)

〈概要〉

- ・「第15回毛長川流域連絡会」は、綾瀬川の耐震護岸補強工事、綾瀬川スーパー堤防整備工事の現場について、平成23年2月中旬頃に開催を予定している。具体的な日程などについては、電話、郵送により1月の中旬頃にお知らせすることの提案を行い了承された。

(6) 質疑・意見

- (都民委員) 護岸整備工事で施工された鋼管杭の錆が気になるがあれで完成したのか、鋼管杭を施工したときに同時に施工した方が効率いいのではないかと。
- (事務局) 護岸整備は平成2年からスタートしており経年による錆等が発生しているが、強度的な問題はない。水害対策を早期に講じる必要性から鋼管杭による護岸整備と河床を下げて流量を増やす対策が先行している。最終的に鋼管杭の被覆や緑化などにより環境、景観等に十分配慮したものを考えている。引き続き、色々な河川の事例を参考に検討のうえ、関係機関とも十分協議を行い検討を進めていく。
- (都民委員) 見沼代用水付近の砂小橋の工事が中断しているが、平成23年3月までに完成するのか。
- (事務局) 現在、工場で舎人橋の橋桁を製作しており、2月中旬以降に現地に搬入する予定になっている。現地搬入後、その桁の架設並びに通路の仕上げ工事を行い、概ね3月中旬頃に終わる予定である。その後、暫定的に利用いただいている砂小橋の通行を舎人橋に切り替え、引き続き、砂小橋の通路部分の仕上げ工事を3月末までに完了する予定である。
- (都民委員) 連絡会の資料を事前に配布してもらえないか。
- (事務局) 前回の連絡会でも、あらかじめ「議事録要旨」を配布してもらいたいという意見があり、今回の開催案内に同封することなどの対応を行った。当日使用する資料を事前に全てを配布することは、資料が膨大であること、専門的な表現が含まれることなどから難しいが、可能な範囲で事前に配布できるよう検討する。
- (都民委員) 埼玉県を整備計画、進捗状況について教えてもらいたい、その説明がないと埼玉県が施工する範囲に入っている町会としては参加する意味がない。上流に向かって右側からの下水の流入が多いが水質調査などしているのか。
- (事務局) 都県境にある河川として一体的に整備して行く必要があると考えている。したがって、東京都と埼玉県とでその整備水準に差が生じないように十分な協議が必要であり、整備工事の時期、工法等も含め引き続き協議していきたいと考えている。また、整備工事を行うにあたっては、その区間の工事の施工に合わせて現況調査ということで下水を含めた施設の把握を行っている。
- (都民委員) 毛長川の魚類の生息の調査に関連して、毛長川に生息する魚類は最近整備されたビオトープと関係しているのか。
- (足立区) ビオトープにいる魚の種類や毛長川の生態との関係については、現段階では説明できる資料がないので、今度の調査で情報を提供できるようにする。
- (都民委員) 花畑大橋の先(埼玉県)の下流側、埼玉県と東京都との境が輻輳(ふくそう)する場所にある花壇について、東京都と埼玉県のどちらが管理しているのか。
- (事務局) 管理は基本的に行政区で分かれるため埼玉県で管理している部分になるかと考えられるが改めて調査する。管理の状況が分かれば追って知らせる。
- (後日の調査結果、花壇の大部分は足立区側にあり、六建の管理する範囲であった。そ

の花壇については六建が埼玉県や草加市と調整したうえで、草加市が中心となり地域の皆さんが適切に管理を行っている)

4. 閉 会

第15 回流域連絡会（現場視察）

- 日時：平成23年2月24日（木）12時50分から15時10分
- 参加人数：都民委員7名、行政委員6名
- 行程：「竹の塚駅交番」前～スーパー堤防整備工事現場（小菅一丁目地区）～水戸橋架替え工事現場～綾瀬川護岸耐震補強工事現場～「竹ノ塚駅前交番」前 ※マイクロバスで移動

1. 開会

2. 現場視察

綾瀬川スーパー堤防整備工事の視察（江東治水事務所高潮工事課の説明）

〈概要〉

- ・国家公務員の宿舎の建設が国により進められており、それに併せてスーパー堤防の事業を共同的にやっている。
- ・従来の洪水・高潮対策として整備されている護岸は、“コンクリートの壁”のようになっている。スーパー堤防整備の事業は、耐震と環境保全を主な目的としており、コンクリートに替わって土による堤防を造り、人が川の近くまで来られるような整備を行っている。
- ・工事は最初に根固め工を行う。鋼管杭（直径約1m、長さ約20m）を河川に打ち込み、川底に地盤改良を施して護岸が崩れないようにする。根固め工の後に盛土を整備する。
- ・盛土整備後の仕上げとして、現在、既設護岸の撤去中である。その後に修景工事として、芝生を法面に張り、スロープや階段、転落防止柵等を設置する。護岸の撤去は周辺住宅等に配慮して、ワイヤーソーを使って細かく切断する。
- ・整備事業は足掛け4年間程になるが、現在が整備事業最後の1～2ヶ月という状況。



スーパー堤防整備の説明を聞く委員



切断した護岸を吊上げるクレーン

水戸橋架替え工事の視察（江東治水事務所高潮工事課の説明）

〈概要〉

- ・水戸橋は歴史が古く、地元の思い出のある橋であるため、地元の方々と協力しながら事業を進めている。
- ・現在の水戸橋は綾瀬川の護岸より低くなっており、潮位が上がった時には、「陸閘（りっこう）」という鉄扉で閉鎖できるようになっている。毎年一回は地元の方々を集め閉鎖をする訓練をしている。
- ・水戸橋周辺の地盤は軟弱である。道路の高さを上げるために、盛土の材料には発泡スチロールを用

いている。また、橋桁には鉄板を使用して橋自体が軽くなるよう、構造にも工夫している。このような橋の構造は、全世界で二例目である。

- ・完成は平成24年度の秋口を予定している。



水戸橋架替え工事の説明を受ける



水戸橋架替え工事インフォメーションセンター

綾瀬川耐震補強工事の視察（事務局の説明）

〈概要〉

- ・この工事区では、護岸の耐震補強として根固め工を先行して行っている。根固め工の後、将来的にはスーパー堤防として整備していく予定である。
- ・工事は順調に進んでおり、2月末には終了の予定である。その後、下流側に向かって同規模の耐震補強工事を進めていく。



綾瀬川護岸耐震補強工事の視察



綾瀬川護岸耐震補強工事の資料説明を受ける

1. 主な質問・感想事項

(都民委員) この辺りの河川・橋関係は全然知らなかったもので、水戸橋の架替えは興味があった。新しい技術を使いながら工事をしているということで、参考になった。

(都民委員) 今日一番びっくりしたのは、発泡スチロールの利用の仕方。よく研究したものだと凄く感心した。

(都民委員) どのプロジェクトを見ても、非常にお金と時間がかかるなど感じ、実際の効果はどうか気になる所もあった。

(座長) スーパー堤防は元々、国の事業と併せて、それぞれの目的で行っている。安全を確保した上で現場を施工していくために、しっかりと計画を持って確実に行っていきたいと思っている。

2. 閉会